

index

- ◆1ページ
 - ・研修の様子（フラッシュ型教材授業活用研修）
 - ・学校の取組紹介（彩が丘小学校）
 - ・今月のお勧め資料（フラッシュ型教材）
 - ・特別セミナー案内（板書の達人）
- ◆2ページ
 - ・どの子にも分かる、できる環境づくりのポイント
 - ・言語活動の充実シリーズ『算数科編』

広島市教育センター

8月、夏休みも中盤になりました。各学校においては、9月からの教育活動に向けての校内研修や、部活動の大会引率等、夏季休業ならではの活動にご尽力されているところと思います。教育センターは夏季休業中は、一年間で最も多くの先生方にお越し頂ける時期です。先生方に明日からの実践につながる有益な学びを提供できるよう精一杯努力しております。

さて、上の写真は、7月28日、29日に開催した「フラッシュ型教材授業活用研修」の一コマです。まずは紙ベースで昔ながらのフラッシュカードを作ることで、イメージづくりをしている場面です。研修では、PowerPoint等のプレゼンテーションソフトを活用してフラッシュ型教材を作成しました。このフラッシュ型教材は課題を瞬時に次々と提示することによって、どきどき、わくわくとしたゲーム感覚の楽しさがあります。短い時間で集中して反復練習することによって、基礎・基本の最初の数分間、継続的に実施す。思考力・判断力・表現力本的な知識」の定着を図るこ

知識を定着させる効果があります。授業することで、効果をあげることができまの育成とともに、「基礎的・基とも大切にしたいものです。



彩が丘小学校は、学校図書館の利活用を研究主題のテーマとして4年目になります。「彩の森図書館」には、マスコットのピクルス君をはじめとして、段ボールで作られたカラフルな机、季節を彩る掲示物、「おすすめの図書50冊」（低・中・高学年）を飾った書棚など、子ども



たちが図書館に親しみ、自然に本に手を伸ばすような仕掛けが随所にちりばめられています。また、教室前の廊下にも手作りの木製のベンチが設置され、各教科等と関連のある本を並べて、学習を深められるようにしています。教育センターロビーに拡大した写真を展示していますので、お越しの際にはぜひご覧ください。



土曜開館特別セミナー

9/20 教育センター

9月は「板書の達人」の研修を開講します。一時間の学びが一目で分かる板書を一緒に考えましょう！参加希望者は、電話かFAXで申し込んでください。

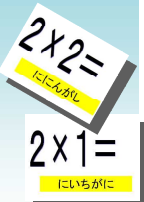
板書の達人

◇持参物：これまでの授業で書いた板書の写真（A4サイズ1枚、できればカラーで）、教科書、学習指導要領等の教材研究に必要なもの



今月のお勧め資料「フラッシュ型教材」

教育センターの内部Webには、これまでの研修で作成された「フラッシュ型教材」を多数アップしています。ダウンロード後、ご自身が使いやすいように編集して使用されることも可能です。ぜひ、一度ご覧ください。



連載②

「どの子にも分かる，できる環境づくりのポイント！」

第2回は，幼稚園の取組を紹介します。基本的な生活習慣の確立等のために，どの校種においても有効な方法です。

Point

1 日課表や時計には，内容や時間の見通しがもてる工夫があります。

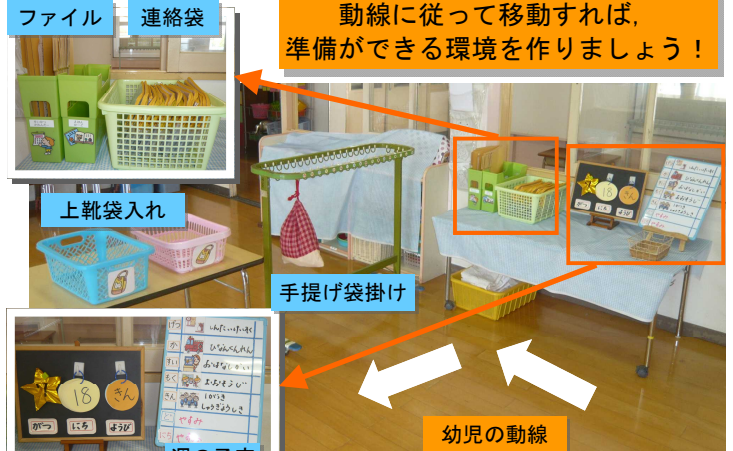


1 日の活動の流れを視覚的に示すことにより，安心して過ごせるようになります。

時計の周りに活動がイメージできる絵を貼ります。幼児たちは長い針を見て，終わりの時間を意識して活動することができます。

Point

2 幼児が自立的に朝の準備ができる環境整備をしています。



動線に従って移動すれば，準備ができる環境を作りましょう！

幼児の動線

動線を生かした環境づくりにより，幼児は自主的に，行動できるようになります。

大町幼稚園 教諭
竹内 美貴先生の実践より

「言語活動の充実」シリーズ

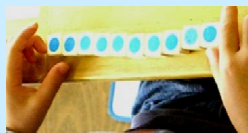
算数科編

学習活動

課題把握

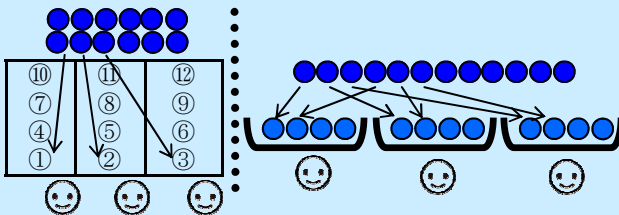
【問題】クッキーが12個あります。3人で同じ数ずつ分けると，1人分は何個になりますか。

自力解決



12個を3人で分けるから，まず1個目を1，2，3と分けて，2個目を1，2，3と分けて…

集団解決



12 - 3 = 9 1個目
9 - 3 = 6 2個目
6 - 3 = 3 3個目
3 - 3 = 0 4個目
答え 4個

□ × 3 = 12
□ = 4 答え 4個



3人に最初1個ずつ配ると残りは9個。次に1個ずつ配ると残りは6個，……1人が4個ずつもらったら残りが0個になります。だから，答えは1人4個です。

まとめ

【適用問題】15個のクッキーを5人で同じ数ずつ分けると，1人分は何個になりますか。式と説明を書きましょう。

式 言葉 グラフ 図 表

算数科の言語活動

Point 1

具体と抽象の橋渡し

操作活動

ブロック操作などの半具体物の操作活動は，演算の意味を実感させ，数式に移行する際に有効です。操作の際に，声に出させることも大切です。

Point 2

違いに着目，良さの発見

図で表現

相互交流

式で表現

図，式，いずれの場合も自分の表現と友達の表現の違いに気付かせ，それぞれの良さを読み取らせましょう。より分かりやすい表現，他にも使える表現方法に気付かせていくこと（一般化）が大切です。

Point 3

学びを適用する場の設定

式で表現

授業で学んだ思考の過程を適用できる場の設定をしましょう。ノートに式だけでなく，式の説明を記述させるのも良いでしょう。

自力解決，集団解決，まとめ（適用）のそれぞれの場面で，言語活動を位置づけることが可能です。式だけでなく，言葉や図，表，グラフを組み合わせる自分の考えを整理し，説明する場を設定しましょう。その際，児童に自己の考えの深まりに気付かせることが大切です。